

令和5年度 宮崎県立妻高等学校 自己評価

【教育方針】	【目指す生徒像】	【妻高教育のキーワード】	
生徒一人ひとりに寄り添い、鍛え、伸ばし、 自ら主体的に生きる力を身に付けさせる教育の推進	1 主体性を持ち、自ら学ぶ姿勢と社会を切り拓こうとする志を有する生徒 2 思いやりと慈しみの心を持ち、共に学び考え解決を図ろうとする生徒 3 新たなものを創出しようという意識を持ち、未来に向けて行動することのできる生徒	1 進学ができる学校	2 就職ができる学校
		3 資格取得ができる学校	4 部活動ができる学校

【学科・コースの目標】		【本年度の重点目標と具体的な取組】
普通科	基礎学力を高め、社会の変化に対応できる人材を育成	<u>1 確かな学力の向上</u> ① 基礎学力の定着 ② 学習指導法の改善・授業力の向上 ③ 系統的な進路指導・妻高スタイルの充実 ④ 資格取得の推進 ⑤ ICT教育の推進 <u>2 妻高ブランドの確立</u> ① 各学科・コースの魅力づくり推進 ② キャリア教育の充実 ③ 探究学習の充実 ④ 個に応じた教育の充実 ⑤ 学びに向かう力の向上 ⑥ 部活動の活性化 <u>3 豊かな心の育成</u> ① 規範意識の高揚、挨拶礼法指導の充実 ② いのちを大切にす教育の推進 ③ 環境美化・整備、清掃活動の充実 ④ 防災教育の充実 <u>4 地域とともにある学校創り</u> ① コミュニティスクールの推進 ② 広報活動の充実 ③ 小中学校との連携、出前授業等の推進 ④ 地域行事への参画、ボランティア活動の推進
文理科学コース	優れた知性を鍛え、社会を切り拓くトップリーダーを育成	
情報ビジネスフロンティア科	商業スキルを高め、グローバル・地域ビジネス人材を育成	
福祉科	豊かな人間性を育み、福祉のプロ・リーダーを育成	

自己評価 【 A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である 】

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
確かな学力の向上	① 基礎学力の定着	教務部	① 宅習計画モデルを作成し宅習の習慣化を図る。学校生活アンケートにおいて「家庭で勉強に集中できている」各学年70%以上を目指す。 ② 成績不振生へのサポートと学習法のアドバイスをを行う。特に、2学期中間考査において、各学年欠点者延べ人数を80人未満にする。	① 各学年・各科における教科科目の学習時間（宅習モデル）を作成・活用し、年2回の宅習量調査の実施による実態把握及び改善の手立てを実施する。 ② 面談時間等を定期的に確保し、学習指導等のアドバイスをを行う。学期末に成績に関する集会を実施し、教科担任を含めた面談時間を確保する。	○ 1年生の入学時のオリエンテーションで、各学科ごとの宅習時間等を提示し、学習習慣の確立を図った。 ○ 4月に夢ツマタイムの時間（45分授業）を利用し、放課後に面談時間の確保を行った。 ○ 6月にLHRの時間を利用し、宅習計画をたて、学習に対する意識を高めた。 ○ 宅習時間調査で2年生はクラッシー（学習支援アプリ）による入力を行った。 ▲ 学校生活アンケートで「家庭で勉強に集中できている」と答えた生徒が1年62.0%、2年60.8%、3年73.9%、全体で66.2%となり、やや目標を下回っている。 ▲ 2学期中間考査の1学年欠点者延べ人数が155人と大幅に増えてしまった。（2年生90人、3年生80人）基礎学力の定着や問題作成の在り方についてについて再度検証を行う必要がある。	C
	② 学習指導法の改善・授業力の向上	教務部	① 授業公開（全員年1回）、合評会を実施し、指導法の改善を研究する。 ② 各教科会において授業改善、工夫等を研究する。学校生活アンケートにおいて「各教科の授業内容はある程度理解できている」各学年90%以上を目指す。 ③ 中学校との教科交流会を年1回は実施し、情報交換や指導法改善に努める。	① 年1回の授業公開を実施し授業力向上に努める。 ② 西都市内の中学校と国数英の教科交流会を実施する。	○ 10月から11月ICTを活用した授業研修を実施。事前に教科会でICT活用計画書を作成し、全員で研修に取り組んだ。 ○ 11月に3回にわけて中学校との教科交流会を実施した。 ○ 学校生活アンケートで「各教科の授業内容はある程度理解できている」と答えた生徒は1年90.7%、2年91.2%、3年91.7%、全体で91.2%となり、目標を達成する数値となっている。	B
	③ 進路確定の支援	進路指導部	全 体 系統的な進路指導・妻高スタイルの充実 <u>普通科</u> ○ 1, 2年生ともに校外模擬試験における偏差値50以上を50名以上育成 ○ 難関大学、難関学部を目指す生徒の育成 <u>福祉科</u> ○ 福祉職従事者としての意識の醸成 <u>情報ビジネスフロンティア科</u> ○ 進路ガイダンスを通した進路意識の醸成 ○ 検定1級合格者の育成	① キャリア意識を醸成する指導の研究と実践 ② 一人ひとりを伸ばすための学力検討会の実施と、教科担任との情報共有 ③ 上位層を伸ばすための計画的指導と実践 ④ 福祉科の生徒が専門教科を学んだり、実習をすることで、福祉職従事者としての覚悟をするような指導の在り方の研究と実践 ⑤ 生徒が進路意識を高めるようなガイダンスの在り方を研究する。 ⑥ 様々な資格検定に合格させるための指導はどうあるべきかを研究する。	① 進路LHRを厳選し、クオリティをあげ、生徒の意識の醸成を図る。 ② 学力検討会の前と後で何も変わらないということがないようにする。次学期・次学年へむけた職員研修や目線合わせの場とする。 ③ 今年度は難関大講座を課外のなかに組み込んで実施したが、実施時期について現在検討中である。九大合格者も続いているので、上位層の日頃の学びにつながるよう継続する。 ④ 校外での実習ができようになり、福祉職従事者の魅力を教えることができるようになった。 ⑤ 職業体験的なガイダンスを実施した。反省をしっかりと行い、改善をしながら生徒にとってよりよいものにしていきたい。 ⑥ 情ビ科は、資格検定の5日前から専門教科のみの課外を実施するという新たな試みを実施。コースによって課外実施日が異なるが、それを年間計画で示し、部活動などとブッキングがないようにしたい。	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
確かな学力の向上	④ 進路実現を補元する事項の精選	進路指導部	普通科 ○ 学力向上のための取り組みの精選 福祉科 ○ 介護実習やボランティアの充実 情報ビジネスフロンティア科 ○ 就職開拓のための取り組みの充実	① これからの時代に必要となる資質や能力とその指導の在り方について研究し、実践する。 ② 朝課外や土曜講座はどうあるべきかを検討し、よりよい形を模索する。 ③ どのような行事をすべきかを精選し、充実したものを目指す。 ④ 受験や進学で避けられない面接や小論文の指導の在り方を研究し、実践する。 ⑤ 来校された企業に厚く対応し、信頼関係を構築する。	① 様々な場面で生徒に考えさせるようにした。それが、生徒の自主性につながるようにする。 ② 課外の在り方については進路部で引き続き協議中である。来年度のたたき台を提示したところなので、教科主任会で詳細を詰めていきたい。よりよい課外にしていく。 ③ 年内入試の割合が多くなっており、推薦入試がますます避けられないものになっている。特に本校はこの入試が一番の山場でもあるので、内規の見直しを含め、指導の在り方も今一度見直したい。教育課程説明会をはじめとして、今後も2学期に生徒が進路について深く考えることができるような手助けをしていきたい。 ④ 面接・小論文指導については、生徒向けと職員向けの研修を実施した。来年度も計画したい。(8月) ⑤ かなり多くの企業に来ていただいている。多忙な業務だが失礼のないよう丁寧に対応している。	B
	⑤ 進路実現の支援	進路指導部	① 国公立大合格者数の50名以上 ② 私大・短大・専門学校合格率95%以上 ③ 介護福祉士国家試験合格率90%以上 ④ 就職内定率100%	① 全職員で面接・小論文の指導にあたる。また、上位層を伸ばす個別指導を充実させる。 ② 専門学校に進学する生徒へも基礎学力や知識を保障するような指導の在り方について研究し、手厚い指導をする。 ③ 福祉科の生徒が介護福祉士国家試験に合格するための支援の在り方を研究し、実践する。 ④ 一般企業や公務員志望の生徒が早い段階から自ら動くことができるように支援する。	① 先生方に推薦入試受験指導で手厚いサポートをいただいた。担当者発表の際に、志望理由書を誰が指導するかについてはしっかり連絡すべきであった。また、推薦委員会の前に学年で誰にどのような受験をさせようとしているのか、検討してもらうとよかった。生徒の出願・受験までのスケジュール感を誰がもたせるのかという問題も残る。 ② 新聞を用いて、物事を深く考えるような取り組みを今後はもっとしていく。 ③ 今年度は福祉科3年の朝課外をやめ、2学期からの夕課外のみ形で実施する。メリハリをつけた指導で国家試験合格にどうつながるのか検証する。情ビ科についても検証は必要。 ④ 就職で様々な仕掛けを行ったが、生徒の動きだしが悪かった。	B
	⑥ 基礎学力の定着	図書渉外部	「朝の10分間読書」の充実を推進するとともに、生徒の図書の貸出冊数や利用数を上げる。	各教科・各学年と連携を取りながら読書指導にあたる。また、進路指導の一助となる専門書や必要な資料の充実を図るとともに、新聞を利用した情報活用の取り組みを活性化させる。	朝読書の時間帯に、各学年を手分けし様子を見回った。クラスによって取り組み状況は差があるが、図書委員が前に座り、呼びかけることで1学期より改善されているように思える。	B
	⑦ 図書室の有効活用	図書渉外部	授業でも利用しやすいように、図書室の学習環境を整え、授業の有効活用の推進を図る。	多くの生徒または職員が、図書室を利用できるように、図書室の環境を整備し、年間利用者数や本の貸出冊数を上げる。さらに、授業でも有効活用できるように、学習環境を整える。	昨年度のこの時期よりも、図書の貸し出し数は増えている。さらに、生徒や職員が利用しやすいように図書室の環境を整備していきたい。	B
	⑧ ICT教育の推進	キャリア情報部	○ Google Workspace、Microsoft365を中心としたクラウドサービスの利用を推進する。 ○ 校務・授業において ICT 機器を積極的に活用する。	① Google Workspace、Microsoft teams の利用を推進する。また、職員研修等を通じて、生徒の活動の記録に留まらず、面談や進路指導等に活用できるようにする。 ② 「一人1台端末」のスムーズな導入を行うため、生徒・保護者に対するの事前説明およびフォロー体制を整える。学校内での利用について、端末の活用に加え、情報モラルやセキュリティ面についての正しい知識を身につけさせる。 ③ 本校に配備されたタブレット等のICT機器の授業への利用方法について職員に周知する。また、授業に活用するために必要な機能を充実させる。	Google Workspace については、授業での活用が進められている。今後の取り組みとしては、Jamboard に代わる共有作業環境の選定を進めていきたい。 一人一台端末の導入2年目、事前に端末を押さえたこともあり、保護者向けの説明や購入案内を比較的スムーズに進めることができた。校内での使用上のルールについてもクラスごとに説明を徹底したが、実際厳守できているかは把握できていない。校内での使用をある程度制限可能な「集中モード」の導入を含めて検討していきたい。	B
	⑨ 実践的な能力と態度の育成	情報ビジネスフロンティア科	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、経済社会の発展を図る能力と実践的な態度を育てる。	(1年)インターンシップ(3日間)10月17日～19日 西都市内を中心に、県内の事業所に3日間のインターンシップを実施し、生徒の職業観を養う。 (3年)課題研究・広告と販売促進 課題研究や広告と販売促進の授業で西都市や地域の教育力を活用して、広報活動の協力や地域のイベント等に積極的に参加し、地域活性化に貢献する。	(1年)インターンシップ(3日間)10月17日～19日 西都市内を中心に県内37事業所で3日間のインターンシップを実施した。生徒のアンケートからも8割～9割の生徒が日頃の学校生活を見直し、将来に向けて考えなければならないと答えていた。中間テスト期間中の午後に事業所へ打ち合わせに行くが、余裕を持って行動できた。 (3年)課題研究・広告と販売促進 課題研究では地域の教育力を活用し、外部指導者の協力のもと、西都古墳まつり参加や都萬神社の例大祭で巫女舞を奉納するなど地域イベントへ積極的に参加した。 メタバース・Unity 班では、清武せいりゅう支援学校の生徒とメタバース空間のバーチャル教室(妻高校メタバース)を中心に交流活動を行った。 広告と販売促進では、西都市民会館の何でも作品展のポスター制作と広報活動協力や西都市教育委員会のこども sight2023 のポスター制作を行った。 地域と連携を図りつつ、多岐にわたる活動ができたと考えている。 依頼が多く活動が多岐にわたるため、担当者や生徒のことを考えると整理が必要かと思われる。	A

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
確かな学力の向上	⑩ 各種検定取得	情報ビジネスフロンティア科	各種検定を取得させ、資格取得による達成感を体得させる。	検定試験前の5日間及び土曜講座により、専門科目による指導を実施し、理解の遅い生徒への対応などを行う。教科担任と課外担当者が連携し、多くの先生方が指導に関わる。	(2学期の検定) 全商英語：1級(合1/受1) 全商情報処理：3級(合16/受32) 2級ビジ(合33/受81) 1級ビジ(合7/受14) 全商ビジネス計算：3級普(合50/受67) ビジ(合57/受66) 級合格者47名、2級普(合0/受2) ビジ(合0/受3)、1級普(合1/受3) ビジ(合0/受1) 全商ビジネス文書：3級速(合10/受15)、2級速(合4/受7) 文(合5/受8)、1級合格2名 日商簿記：3級(合1)、2級(合6/受11) 3年生：全商5種目以上1級1名、3種目以上1級2名 検定2週間前より、専門科目による朝課外を実施し、理解の遅い生徒への対応などを行う事で一定の成果につながったと考える。また、今年度より導入した Funda 簿記は日商簿記2級合格者6名と実績を上げている。	B
	⑪ 基礎基本の定着	情比科	学力・生活面及びビジネスマナー・情報モラルの基礎基本の定着を図る。	学科集会等を開催し、ビジネスマナーや情報モラル、学科生徒の課題についての話や実践活動を定期的に行い、定着を図る。	学年ごとに学科の生徒が集まった際に、ビジネスマナーや学科生徒の課題などについて語り、実践活動も行った。今後、学科集会や日頃のHRや授業などとおして、さまざま話を聞かせて生徒を育成していきたいと考える。今年度は、商業委員の自主的な活動として朝のあいさつ運動を行った。	B
	⑫ 専門的知識・技術の定着	福祉科	専門的知識・技術の定着を目指した授業を実践し、学習の成果を上げる。	① 授業の確保(定期考査1~3日目は4限授業)を行う ② 長期休暇課外(7/31~8/10、12/26~12/28) ③ 進路実現、国家試験に向けた受験態勢確保の整備を職員間で連携して行う ④ 国家試験合格に向けて夕課外の充実 ⑤ 対外模試の分析及び復習テストを実施 ⑥ 1月の特編授業の実施 ⑦ 医療的ケアの充実、根拠を持った演習の実施	○ 定期考査後の4限目は、全学年授業を実施することができている。 ○ 3年生は、国家試験に向けて夕課外を実施することができている。 ○ 昨年度はコロナ禍の為実技が厳しい時期もあったが、現在は医療的ケア・演習の授業も実施することができている。 ○ 1年生においては、2年生に引き続きオープンスクールを担当し、これまでの学びを深め、福祉科としての意識が高まったと感じている。また、オープンスクールに向けての取り組みの中で一人ひとりが成長したと感じた。今後の更なる成長につなげていきたい。	B
	⑬ 資格取得の支援	福祉科	介護福祉国家試験合格率90%以上を目指す。	① 介護実習での知識と技術の習得 ② 対外模試の実施(全国模試4回実施)・校内模試の実施 ③ 個別指導の徹底	○ 全学年実習を実施することができた。福祉の学習の意欲の向上につながっている。来年度の実習もさらなる学びが得られるよう職員で協力し支援していきたい。 ○ 介護福祉士全国統一模試を実施することができている。結果を分析し1月の介護福祉士国家試験に向けて努力している。校内模試を1月13日(土)と20日(土)に実施。 ○ 12月福祉科特別授業日実施	B
	⑭ 難関国公立大学及び医歯薬系への進学指導	文理科学コース	① ベネッセ模試でクラスの核となるA1ランク以上の生徒を1名以上育成し、A2ランクの生徒をA1以上に引き上げることを目標とする。九州大学に合格できる生徒の育成を指針とする。 ② 医歯薬系希望生徒の進路実現をサポートする。特に医学部医学科進学を目指す生徒を育成する。 ③ 3年次ではクラスの70%以上国公立大学合格者を目指す。	① 難関大講座を実施し、普通科も含め成績上位10名~15名の難関大学を目指す集団の更なる学力向上を目指す。1、2年生は各学期末考査後の朝課外、3年生は夕課外を用いる。1年生は夏の九州大学のオープンキャンパスに参加し、九州大学への進学意識を醸成する。 ② 生徒との面談を通して医歯薬系を目指す生徒を支援する。西都市地域医療対策室や西都児湯医療センターと連携を図る。 ③ 生徒の進路希望や適性を見極め、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜を利用して受験に臨む。	① 1年生は夏に九州大学のオープンキャンパスに参加し難関大について考える良い機会となった。 <7月→11月進研模試A1ランク以上> ・1年：0名→3名/2年：0名→0名 ・2年生の成績上位者の育成が課題である。 ② 現在浪人中の卒業生が宮崎大学医学部医学科地域枠Bの第1次選考を通過。二次選考と共通テスト次第。1年生の医学科志望生徒を今後も応援していく。 ③ 特に推薦が不合格だった生徒は、一般入試で勝負できるように3学年と協力してサポートしていく。	B
⑮ これからの大学入試を見据えた学びの推進	文理科学コース	① 各種グランプリやコンテストに応募し挑戦させ、生徒の主体性の育成を図る。 ② キャリア情報部と連携し、探究型学習活動を推進し、プレゼンテーション能力を育成する。	① 1年生では、県サイエンスキャンプ、九州大学未来創成科学者育成プロジェクト。2年生では、科学の甲子園県予選。3年生では、科学系オリンピックへの参加(理系所属生徒は必須)を推奨する。 ② 総合的な探究の時間を利用して取り組んだ内容について、文系班はマイプロジェクトアワードへの出品、理系班は県サイエンスコンクールへ出品し、上位大会進出を目指す。	① 3年生理系生徒は、物理・化学・生物のいずれかの科学系オリンピックに参加した。科学の甲子園県予選には1年1組と2年1組の2チームが参加した。 ② 2年理系班の一つが12月の九州生徒理科研究発表大会熊本大会に出場し、2年文系のランタン班は西都古墳まつりで活躍しテレビ取材も受けた。今後は、マイプロジェクトアワードへの出品に向けて活動する。 今後の課題は、年度が替わり次の学年の後輩たちになっても、継続的に参加し続ける体制を構築することだ。そのため、文理科学コース集会や通信等を利用して生徒間の縦の繋がりを持たせ、挑戦する文化の醸成に努める。	A	

自己評価 【 A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である 】

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
妻高ブランドの確立	⑯ 各学科・コースの魅力づくりの推進	教務部	① 新課程におけるカリキュラムの検討を実施し、各学科、コースの魅力づくりを行う。 ② オープンスクールの充実を図る。特に、中学生アンケートにおいて良かったと感じる生徒を90%以上にする。	① 新課程にあわせカリキュラム全般の検討を行う。 ② 1・2学期に実施するオープンスクールの実施方法、内容を検討し、本校の魅力を伝える。	○ 6月実施のオープンスクールに関しては、体験授業を中心に計画、運営をおこなった。(参加者379名) ○ 10月実施のオープンスクールは中学1・2年生にも募集をかけた。(参加者96名：1・2年生13名) ○ 講座割り振り等には苦勞したが、各先生方の協力によりスムーズな運営ができた。 ○ 中学生アンケートで良かったと感じる生徒が92.4%と高い満足度を得ることができた。 △ 次年度の、2年生普通科の学級編成、授業展開等を早めに再検討する。	A
	⑰ 特別活動の推進	生徒指導部	○ 生徒の主体性の育成を図る。 ○ 生徒会や各種委員会活動で学校全体の活性化を図る。 ○ 部活動生がリーダーシップを発揮し、学校全体を盛り上げる。 ○ 部活動加入率80%以上を目指す。	① 学校行事や各種委員会における生徒の主体的な運営を推進する。 ② 部活動生集会やキャプテン会を適宜開き、活性化するための課題・具体的な解決の方策を練る。 ③ 外部指導者との連携を図る機会を作る。 ④ 活動状況を妻高HP・妻高便り等で発信する。 ⑤ 部活動体験期間を設定して部活動加入者を増やす。	① 文化祭で生徒会やLHR委員による運営の支援ができた。 ② 1学期末の部活動生集会で、部室の使い方の徹底を図ることができた。 ● 部活動加入率76% ● 部活動状況の情報発信	B
	⑱ PTAとの連携	図書渉外部	生徒の健全育成のために保護者や地域との連携を深め、PTA活動の研修の活性化とPTA活動の参加率を上げる。	PTA各委員会の活動内容を見直し、保護者全体で取り組めるような活動の在り方を考えていく。また、県高P連や児湯地区PTAの研修会など、外部研修会への積極的な参加を促す。	全国高P連大会(8/23~25)、県高P連大会(10/6~7)などの研究大会に参加し、研修を深めることができた。また、広報委員会などPTA各委員会も活動した。3学期は、母親研修会の実施や来年度に向けて委員会活動の見直しをしたい。	B
	⑲ 魅力づくりの推進	図書渉外部	進路指導を充実させるために、各学科に必要な専門書や、進学に必要な資料や蔵書の充実を図る。	進路実現に向けた小論文指導や教科指導のために、図書の整備を進め、蔵書の充実を図る。不足している分野の補充に努めながら、話題の本や新刊書の購入も積極的に行いたい。そのため、昨年に引き続き図書館および蔵書室の整理及び古い蔵書の廃棄処分を計画的に行っていく。	1学期に続き、蔵書の整備や古蔵書の廃棄処分は、計画的に実施されている。さらに小論文指導や教科指導に関わる進路実現に向けた図書の整備や生徒達への周知をしていきたい。 小論文指導や教科指導に適切な書籍が十分に揃っていない。進路指導部や各教科と連携して、適切な書籍を選択し、指導に役立つ書籍を揃えたい。	A
	⑳ キャリア教育の充実	キャリア情報部	各学科・コースに応じた探究活動の実践を推進する。	① 1年次において、普通科・情ビ科共通の学びを通して探究・記録の方法や地域の抱える課題について学ぶ。2学年次より地域経済や教育機関と連携した探究活動に取り組む。 ② 各学科の目指す進路に応じた大学・企業訪問等を通して進路意識を高め、また、望ましい職業観・勤労観を身につけさせる。	探究活動において、1学年の学習教材を変更したことで、基本的な学びに関する指導については、昨年度に比べ、少しは見通しを立てて授業を進められるようになったのではないかと考える。2学年は、地域と連携し、活発に取り組む姿が見られた。ただし、人数やグループが増えた分、全体的な把握が難しくなり、関係機関に迷惑をおかけしてしまった。また、放課後や休日の活動も増えたことで、生徒・職員の負担感が増していることが懸念される。アンケートに頼らない情報の収集方法など、探究活動の方法の見直しを進めていきたい。	B
	㉑ 各学科・コースの魅力づくりの推進	文理科学コース	① 文理科学コース3学年間の縦の繋がりと一体感を醸成するとともに、生徒が活躍する場を提供し、コースとしての魅力を高める。 ② 学校行事や対外的な活動を通して、生徒が文理科学コースの一員として誇りをもって活動できるように支援する。	① 年間12回実施を目的に文理科学コース集会を実施する。司会・運営を生徒に任せ、様々な行事や大会等で活動した生徒たちの発言の場を作る。学年を超えたグループ活動を通して、縦の繋がりと一体感を醸成する。 ② オープンスクールや記念式典、地域の小中学校との連携・活動を通して、コース代表として生徒たちが活躍できる場を提供する。	① 学年を超えた縦割りのグループワークを複数回実施することができ、活動を通して上級生の成長が見えた。3学期も生徒主体の集会を実施していく。 ② オープンスクール10月では2年生を中心に、高校受験指導(数学と英語)を通して中学生との交流会を実施できた。次年度を見越して反省会をしており、継続して本校の高校生の姿を見て感じてもらえるようにしていく。小中学生とのクロストークに代表生徒を派遣した。	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
豊かな心の育成	⑳ 基本的な生活習慣の確立	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間・服装容儀・あいさつ・接遇、清掃について社会人として通用する感覚を身につけさせる。 ○ 問題行動の未然防止を図り、特別指導ゼロを目指す。 ○ 生命の安全・環境の充実 ○ 自転車通学生のヘルメット着用率30%以上を目指す。 ○ 自転車・バイク施錠率90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業、SHR時、職員室入室時などの機会を捉えて、基本的な接遇マナー・立礼の姿勢を指導する。 ② 朝夕の校門指導や学校内外の巡回指導を定期的実施する。 ③ 日常的な服装・容儀等の声かけをし、生徒の規範意識を醸成する。 ④ 西都警察署や関係機関と連携して、交通安全に対する意識づけを行い、自転車やバイク通学生対象の講習会を定期的実施する。 ⑤ 自転車の整備、施錠点検等を実施するとともに、自転車通学生のヘルメット着用についても呼びかけ、安全意識や交通マナーの向上を図る。 ⑥ 喫煙・薬物・ネットによるトラブルなどの防止について講話や集会等を行う。 ⑦ スマホ・携帯電話等の学校持ち込みに関するルールの徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①③ 全職員で指導していただいている。 ② 中間考査前・期間中1学年職員による朝の立ち番指導を実施。 ② 期末考査前、交通担当職員による下校指導を実施。ルールを知らない1年生もいた。 ④ 交通安全教室・バイク実技講習会を実施。 ⑤ 自転車乗車時のヘルメット着用啓発活動に関する発表（ひいらぎ祭文化の部・交通委員会）。 ⑥ ネットトラブル防止の集会および講演会を実施した。 ● 問題行動3件12名 ● 始業時間がわかっていない生徒がいる：掲示物で周知徹底をはかる ● 自転車・バイクの施錠率 83%(5月)→73%(6月)→65%(11月)→62%(12月)：定期的なチェック・学校全体の意識向上 ● ヘルメット着用6名(2.8%) ● スマホの校内使用によるイエローカード20件(1学期)→13件(1年：3件、2年：5件、3年：5件)：指導の統一 特にタブレットの不適切使用について 	C
	㉑ いのちを大切に する教育の推進	保健環境部	自他の安全と健康及び生命の大切さを理解させ、その実現に必要な知識と実践する力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健の授業における心肺蘇生法及びAED操作研修の実施 ② 職員対象心肺蘇生法及びAED操作研修の実施 ③ 保健講話の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部と連携していのちを大切に教育の推進に努めたい。 ・性教育講座→1学期特編7/25(1・2年生) 2学期→3年生12/12実施 ・心肺蘇生法・AED講習会【職員】6/7 ・薬物乱用防止教育→西都警察署より 11/28(1年生)実施 	B
	㉒ 健康安全教育 の推進	保健環境部	健康及び安全の保持増進のための知識理解を深め、実践する力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健の授業の充実 ② 各種健康診断等の目的及び事前、事後指導を実施(視力検査C・D評価生徒の受診率をアップ) ③ 体育授業時の安全管理指導の徹底(学期1回の点検) ④ 行事前の健康相談の実施 ⑤ 日常的な保健指導の実施 ⑥ 保健委員会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科や関係職員と生徒の体調等の情報共有を行った。 ・生徒への保健指導のため、最新の情報収集に努めた。 ・クラス担任と連携して、視力検査C・D評価生徒に受診するよう呼びかけを行い受診率をアップさせたい。 	B
	㉓ 環境美化・環境 整備の充実	保健環境部	<ul style="list-style-type: none"> (1) 美化ボランティアを実施し、環境美化に対する意識高揚を図る。 (2) 教室の環境整備、ゴミの持ち帰り、分別の徹底を図り、ゴミを減量化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 美化ボランティアを学期1回実施する。 ② 学期1回「校内美化週間」を設け、美化委員を活用しながら教室の整理整頓の状況を点検する。 ③ 廊下のゴミ箱を最小限にとどめ、持ち帰りの徹底を図り、ゴミを減量化する。(年間の業種引き取りゴミ袋の数を減少させる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回校内美化週間を実施し、取りかかり、教室の整理整頓、ゴミの減量を中心に実施を行った。 ・ゴミの持ち帰り指導、周知徹底して行きたい。 	B
	㉔ 毎日の清掃 の徹底	保健環境部	師弟同行、率先垂範で生徒ともに清掃活動に当たることを目標とし、職員、美化委員による評価の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日の清掃活動を充実させる。 ② 「校内美化週間」を設け、職員、美化委員で清掃状況の評価を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み明け、放送部の協力により5分前予鈴後より音楽をかけてもらっている。 ・美化委員による放送での呼びかけを工夫したい。 ・先生方がついていただけない清掃区域の清掃状況が悪いようである。率先垂範でご指導をお願いしたい。 	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
豊かな心の育成	⑲ 防災教育の充実	保健環境部	防災に対する意識の高揚を図り、危機管理を徹底させて避難訓練や消火訓練を実施する。	① 年2回の避難訓練を行い、2回目の訓練においては、主体的に訓練に望めるよう時間の予告をしない、或いは避難経路が使えないなど緊張感が持てるように工夫する。 ② 避難訓練を通して、職員の役割分担や緊急時行動マニュアルの確認を実施する。	・第1回避難訓練は、火災を想定して西都市消防本部とも連携して実施。雨天のため全校生徒を体育館に集め、避難の再注意すべき点の確認を行った。 ・第2回は、10月10日に地震を想定して実施。今回教室外へ避難せずに点呼を実施。クラス単位ではなく授業クラス、時間割にて実施。反省アンケートに上がったものを今後活かしたい。	B
	「いじめ」への取り組み	教育相談部	① どんな些細なことでも気軽に相談できる雰囲気作りに努める。 ② 自分と同様に他者を大切にできる生き方を学ばせる。 ③ 不登校等による転退学者が、昨年度18名、一昨年度19名であった。1桁以下を目標とする。	① 担任や学年との連携を密にし、遅刻欠席の目立つ生徒を早めに把握し、その原因を探る。 ② 学年会に参加し、生徒の様子を把握、教育相談部内の情報の共有を図る。 ③ 担任や副担、関係職員との連携を図り、保護者とも連絡を取りながら面談等の手立てをする。 ④ 教室に入りづらい生徒については、教育相談室登校など該当生徒に合った取組を進める。 ⑤ 生徒の現状や課題を捕まえるために「学校生活アンケート」を実施する。 ⑥ いじめについては、生徒指導部と連携を図りながら、生徒のサポートを行う。 ⑦ 「いのちを大切に教育」に取り組み、他者の命を大切にすることの学びを、機会あるごとに深めさせる。	① 朝の遅刻や欠席の連絡が、ミラタイム確認できるようになったので把握しやすくなった。相談部として毎朝の登校状況を靴箱のチェックで二重に行っている。欠席が続く生徒の学級担任と連絡と連携を深めた。必要な面談も引き続き行いたい。 ② 学年会や部会で挙がった生徒を相談部員で多面的に捉え、3学期以降もよりよき方向に進めるようにしていきたい。 ③ 職員との連携を常に図っている。必要な本人や保護者面談を3学期以降も積極的に行っていきたい。私費のスクールカウンセラーが導入され、継続的に面談が出来るようになり、同じ生徒保護者を複数回行うことが出来た。7月3組、8月3組、9月6組、10月4組、11月8組である。 ④ 教室に入りづらい生徒が相談室で過ごしている。相談室の認識が、浸透している。教室に復帰できるように働きかけたい。今後、ピアサポートやヤングアシスタント等も検討していきたい。 ⑤ 学校生活アンケートは、集計は非常に容易になり、1学期の反省を生かした結果、2学期はスムーズに全員の集計が進み、分析や生徒面談等に役立てることが出来た。 ⑥ 今後も生徒指導部等と連携をして生徒のサポートを行いたい。 ⑦ 3学期については検討中である。	B
	⑳ 特別支援の必要な生徒への取り組み	教育相談部	① 特別支援の必要な生徒を把握する。 ② 特別支援教育に関する研修会を企画する。 ③ エリアコーディネーター等との連携を図り、特別支援の必要な生徒についての理解を深め、支援計画づくりに生かす。 ④ 特別支援学校との連携を年間に10回を予定している。	① 新入生の実態把握のために、保護者向けのアンケートや出身中学校向けのアンケートを行う。 ② 特別支援教育の必要性や在り方等について研修の機会を設け、具体的に生徒に対するときの在り方についての学びを深める。 ③ エリアコーディネーター等を積極的に校内に招へいし、生徒理解と具体的な指導の在り方等助言をいただく。	○ しろやま支援学校との連携 11月16日には、聴覚支援が必要な生徒のケース会、授業観察、本人・保護者との面談を実施した。修学旅行、進路について等々のアドバイスを受けた。 12月12日には、聴覚の気になる生徒約10名の授業観察を実施。学期末の聴覚支援関係者会議については、3学期に延期になった。 ○ 課題について 現在休学中の特性の強い生徒に対する対応等々がこれからの課題となる。	B
	㉑ 教育相談部の組織及び取り組み	教育相談部	① 教育相談部として、関係機関・団体等との連携について模索する。 ② 生徒理解のための校内連携を工夫をする。 ③ 相談室の環境を整備する。 ④ 毎週の学年主任会で報告のあった生徒に対し適切な会議等を設け支援につなげる。	① 関係機関・団体との連携についての情報収集と具体的な取組を進める。 ② 生徒指導連絡協議会での情報把握の在り方、新入生登校日を利用した生徒情報収集の在り方、学校生活アンケートの内容や実施方法等、教育相談部の存在を周知徹底する方法などについて考察する。 ③ 教育相談室運営や各委員会の開催についての具体的な方法を考察する。	① 関係中学校、教育委員会等と連携を行い、情報収集と具体的な対策を進めている。スクールカウンセラー等と連携を行い、より一層具体的な対策を進めている。 ② 新入生に対し、入学前から必要な保護者や生徒、中学校等の関係機関と面談を行い、情報収集に努め、教科担任会やケース会議等を行い、具体的な対応を検討し進めている。今後も続けていきたい。2、3年生に対しても、必要な生徒に教科担任会やケース会議等を開き、具体的な対応策を検討し、進めていきたい。 ③ 相談室が狭い上に、生徒と同じ部屋に教員もいるので具体的な話をすることが出来ない。	B
㉒ 福祉職としての心得	福祉科	福祉職従事者としての心の育成を図る。	① 福祉科行事の精選と充実するために、地域と職員間で連携を図る ② 実習前には他学年との引き継ぎを行う ③ 介護実習（校内・校外）、外部講師招聘事業の精選と充実 ④ あいさつの励行、言葉遣いや容儀指導の徹底	○ 全学年実習をすることができた。一人ひとりが意識して実習に臨むことができ、実習での経験が大きな成長につながり自信を持つことのできる生徒増え、日々の福祉の学習の意欲の向上につながっている。来年度の実習もさらなる学びが得られるよう職員で協力し支援していきたい。 ○ 施設ごとに、異学年からの引き継ぎ会を実施することができた。 ○ 小学生・中学生との交流会を実施することができた。生徒は実習や、行事を重ねるごとに成長が見られ、日々努力を重ねている。20日は特別支援学校の生徒の交流会を実施できた。 ○ 宮崎県介護技術コンテストでは、3年生の代表生徒が最優秀賞を受賞することができ、九州大会に出場することができた。（本校が運営校） ○ 3学期は西都市社会福祉協議会、青年開発協力隊、介護ロボットの講習会を予定しており、学習の充実を図っていきたくと考えている。より多くのことを学ぶ機会となるように日々の学習を積み重ねていきたい。	B	

自己評価 【 A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である 】

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
地域とともにある学校創り	③② スクールの推進 コミュニティ	教務部	中高連携の取り組みを積極的に行っていく。	教科交流会、聖陵セミナー等を通じて、中学校との連携を深めていく取り組みを行う。	聖陵セミナー、教科交流会などを今年度も予定通り実施することができた。来年度もより一層中学校との連携を深めていきたい。 次年度以降、国数英以外の教科についても教科交流会を行うなど、中学校との情報交換の機会を設けていきたい。	A
	③③ 連携の推進 地域・小中	生徒指導部	○ 地域の教育力や教育資源を学校教育に活かす。 ○ 自転車交通安全モデル校として、西都警察署や地域と連携して、交通マナー向上を発信していきたい。	① 地域のボランティア活動に積極的に参加させる。 ② 学校行事を通して地域との交流を深める。 ③ 行政機関等の関係諸機関と連携して、問題行動の未然防止を図る。	① 1年生が少しずつ参加し始めている。 ② 生徒会の呼びかけによる清掃活動ボランティアへ多数の参加があった。 ③ 警察署や市役所等への定期的な連絡・訪問や情報交換はできた。 ● ボランティア募集に関する部活動との連携が必要 ● スケートボード愛好者へのマナー指導	B
	③④ スクールの推進 コミュニティ	図書渉外部	同窓会その他関係機関と連携しながら、100周年記念事業を継承し、地域と共にある学校を目指す。	地域と共創しながら、本校ならではの事業を展開することで、生徒達が母校への成就感を促す。	3学期も同様に、地域や同窓会と連携をはかり、生徒達が地域の行事やイベントに積極的に参加することで、地域と共にある学校となり、母校への成就感につながる。	B
	③⑤ 広報活動の充実	キャリア情報部	① 「学校ホームページ」やSNSの積極的な運用を行う。 ② 「妻高だより」(年4回)の発行・「学校看板」の掲示(年12回)を行う。	① インターネットを利用した情報発信については、学校CMSの内容充実およびSNSを活用したタイムリーな発信を目指す。 ② 妻高だよりについては、年4回の発行を行う。学校看板については、原則として12回作成する。広報委員会および各分掌、学科と連携し、内容を充実させる。また、近隣の小中学校や、市役所等を通じて、地域に広く配布する。	情報の発信については、広報委員会生徒や情報ビジネスフロンティア科の生徒が中心となって学校行事ごとに記録を残し、学校HPやInstagram等のSNSを使ったタイムリーなアップデートができた。SNSについては、現在、Facebook、TickTok、Instagramを運用しているが、更新担当者の負担や想定するターゲットを考えて、今後、媒体を絞ることを検討している。 「妻高だより」「学校看板」については、定期的な発行を進めることができています。今後も関係する分掌と連携を取りながら作成を進めていきたい。	B
	③⑥ 中高連携	文理科学コース	中高連携の取り組みを積極的に行っていく。	教科交流会、聖陵セミナー等を通じて、中学校との連携を深めていく取り組みを行う。	今年度の聖陵セミナーでは、1年文理担任と文理科学コース主任の2名が講師として参加し、講義内において文理科学コースのPRもできた。	B